

平成25年10月17日

第115号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



天狗の庭から火打山を望む（新潟県妙高市）

（撮影者：上越森林管理署 藤井弘行）

東日本大震災において被災した海岸防災林の再生について

磐城森林管理署 原町治山事業所

私と国有林「世代を繋ぐ環境保全活動」

株式会社日立ハイテクノロジーズ CSR本部
CSR・コーポレートコミュニケーション部 係長 小笠原 誠氏

東日本大震災において被災した 海岸防災林の再生について

磐城森林管理署 原町治山事業所



被災前の相馬市大洲国有林

平成23年3月11日午後2時46分に、三陸沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震はマグニチュード九・〇と我が国観測史上最大のものであり、岩手県から千葉県までの広い範囲で震度六弱以上の強い揺れを記録しました。



被災後の相馬市大洲国有林

この地震によって生じた巨大な津波により、東日本の太平洋沿岸部を中心に甚大な被害が生じたのは記憶に新しいところです。この津波により福島県沿岸部の海岸防災林は、多くの立木が倒伏や流失等の被害を受け、潮害の防備や防風といった災害防止の機能が失われました。



津波によって被害を受けた護岸工

復旧事業の概要について紹介します。海岸防災林の復旧にあたり、当署では最初に大洲国有林の被害状況について調査を実施しました。この調査ではまず被害木の形態と地形、土壌、地下水位との関係を把握し、被害の原因を明らかにした上で今後の復旧計画を策定することを目的としました。調査の結果から、大洲国有林では地震により地盤沈下が生じ、もともと高い位置にあった地下水位が相対的に上昇したため、土壌のせん断抵抗力が著しく低下し、津波により立木の多くが倒伏、流失したことが明らかになりました。また、震災前には立木根系が高い



復旧工事が進む護岸工

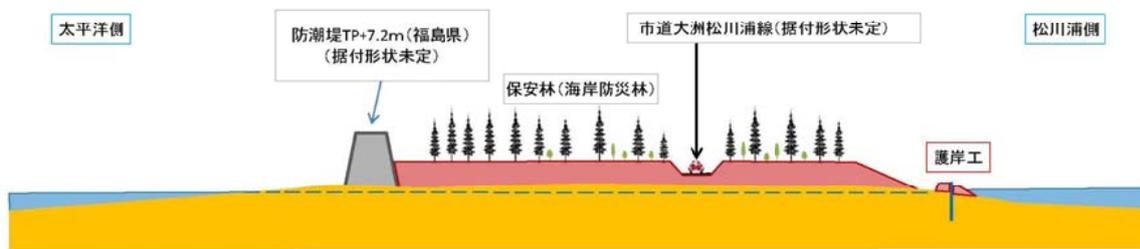
地下水位によって伸長が阻害されており、津波に対する抵抗力が小さかったことから、復旧にあたっては十分な盛土を行い、根系が生長できるスペースを確保することとしました。復旧工事については、平成24年度より護岸工から着手しました。この工事では、希少種が生育する保全区域を設定し、県内有数の塩性湿地(注)という特異な環境に配慮しながら施工を行っております。(注)海岸にある湿地・沼地であり、海に近いため潮汐の影響により、時間帯により塩水・汽水に冠水するか、または陸地になる地形。また、現在は海岸防災林の生育基盤となる盛土工がメインとなっている



盛土が完成した状況(今後、植栽を予定)

るところです。
 ダンプで搬入してきた山砂を重機で敷き均すという作業を繰返して、地下水位より3メートルほど高い箇所まで盛土を実施しています。
 大洲国有林付近では、被災した防潮堤の復旧工事や民有林の海岸防災林造成工事が実施されており、関係機関との連絡調整を密に行いながら進めています。
 また、近隣の道路整備や災害公営住宅も完成するなど、他事業の復旧も着実に前進しています。
 当署としても早期の海岸防災林の復旧・再生を目指し事業を進めてまいります。

海岸防災林復旧による将来イメージ



完成イメージ図

ロケットリーフの開発
 赤谷センターでは、みなかみ町の廃校(旧猿ヶ京小学校)活用プロジェクトを行っている「(社)猿ヶ京小学校スポーツアカデミー」から子供も大人も気軽に楽しめる環境教育教材の開発を相談され、カエデの種をヒントに「空飛ぶタネの模型(名称…ロケットリーフ)」を開発しました。
 これは、森林文化を伝え、緑化運動の啓蒙を通じて地域振興等にも寄与できるものと考えています。

赤谷森林ふれあい推進センター(以下、赤谷センター)は、群馬県北部と新潟県との県境に広がる国有林野を対象に生物多様性の復元と持続的な地域づくりの推進を行っています。
 また、地元NPOに対しても森林環境教育等に関する技術的な支援も行っています。
 今回は、その取り組みを紹介いたします。

「ロケットリーフ」の様々な活用
 ～大空高くロケットリーフで支援のWA～



間伐・間伐材利用等の推進のPR
 平成25年5月1日ロケットリーフは、間伐材マーク事務局より間伐材マークの認定を受けたことから、ロケットリーフを通じて、間伐推進の普及啓発及び間伐材の利用促進もPRできます。



ロケットリーフキット

開発にあたっては、アイテムの形状・コストはもとより、体験プログラムや普及方法等についても、アイデアを出し合いました。



間伐マーク

認証番号 K1303301

地域振興への寄与

ロケットトリーフは、県産のスギ、ヒノキ間伐材を使用し(社)猿ヶ京小学校スポーツアカデミーで製作していることから地域振興アイテムとしても期待できます。

また、袋詰め作業を沼田市に所在する障害者就業・生活支援センターに委託し、障害者の就労支援を行っています。

環境教育

森林教室等のプログラムに種子の話を組み込み、プログラムの最後を盛り上げるためにロケットトリーフの対空時間を競う大会を行ったり、昼食後の遊びとして活用するなどプログ



ロケットトリーフ大会

ラムのメインにも、時間調整にも使える便利なアイテムです。

イベント

イベントの時には、ブースにお客様を呼び込むためのキャッチ用のアイテムが重要となります。

ロケットトリーフをブース前で飛ばすと、空高く舞うことから自然と目につき、また、短時間で作成できることなどから、イベント時の集客に最適です。



敷島公園祭り

また、みなかみ町では、抽選会にロケットトリーフに賞品番号を記入し、会場へ向けて飛ばすといった使い方もしています。

担当者によると、抽選の賞品よりロケットトリーフの問い合わせの方が多いためです。

また、みなかみ町新治地区の情報発信基地である道の駅「たくみの里」では、短時間で楽しめるプログラムとして、ロケットトリーフを活用しています。

自然林復元試験地

赤谷プロジェクトでは、植栽に頼らずに自然林に復元するための試験地を設定しています。

ここでは、赤谷プロジェクトを見学に来ていただいた方にロケットトリーフを使って種子が風に乗って飛んでくる様子をイメージしていただいています。



韓国からの視察

の一部を森林整備に役立てていただくために、国土緑化推進機構が実施する「緑の募金」へ寄付することとしています。

今後の取組

ロケットトリーフは、老若男女を問わず誰れもが一緒に楽しめる様々な可能性をもったアイテムです。

間伐材マークの認定を受けたことで、取り組みの意義がより深まり環境教育のプログラムも幅が広がりました。

このアイテムをみなかみ町発！全区区へと普及させることで、森林・林業はもとより、地域振興にも寄与できると考えています。

新たなNPO等への技術・支援のあり方として、参考になればと思います。

ぜひ！ロケットトリーフで様々な支援のWA！を広げましょう。

幹部の紹介

10月1日付け()は前職

関東森林管理局課長等

▽赤谷森林ふれあい推進センター所長 藤澤 将志

(林野庁林政部経営課経営対策官)

緑の募金

(社)猿ヶ京小学校スポーツアカデミーでは、ロケットトリーフの売上



一ノ倉沢を背景に参加者全員で記念撮影

平成25年度国有林野事業見学会を開催 『谷川岳一ノ倉・マチガ沢風景林を歩く』

森林整備部 技術普及課・利根沼田森林管理署

関東森林管理局では、国有林野事業を広く一般の方々に理解していただくため、国有林野事業見学会を実施しています。

本年度は、9月13日（金）に開催し、首都圏の各地から23名の方々に参加いただき、谷川岳の雄大な地形や溪流を眺めながら、一ノ倉・マチガ沢風景林を中心に約6kmのトレッキングを行い、保護林の見学や、利根沼田森林管理署が取り組んでいる「ナラ枯れ（カシノナガキクイムシ）」

対策」の現場を見学しました。現地での出発式では、利根沼田署長から、利根川の重要な源流部であるとともに谷川岳の自然景観と森林生態系の保全が期待される現地の国有林の特徴と、森林官の業務や服装を紹介して、出発しました。

風景林を歩く

途中「谷川岳・サワグルミ林木遺伝資源保存林」では、保護林について、マチガ沢ではレクリエーションの森について、それぞれの制度や設定状況等の解説を行いました。

また、所々に、地元で組織されている谷川岳エコツーリズム推進協議会が設置した樹名板があり、ミズキ、ホオノキ、ウダイカンバ、ブナ等の特徴や用途など解説して進み、お昼頃、一ノ倉沢に到着しました。

参加者の皆さんは、未だ厚い雪渓に埋められた溪床や、そそり立つ一ノ倉の岩壁群の雄大な景色から目を離すことができない様子でした。昼食休憩の後、全員で記念撮影を行って一ノ倉沢を出発しました。ここまでは平坦な道路を歩いてい

ましたが旧道分岐から細道で急な下り坂となるなど、午後の一時間ほどは本格的なトレッキングとなりました。



ブナの林にて、熱心に説明を聞く参加者

ナラ枯れ対策

その後、土合橋からバスでJR上越線土合駅裏まで移動し、当駅東側斜面の国有林で実施しているナラ枯れ防除事業請負箇所「おとり丸太」誘引駆除の様子を見学しました。

群馬県内では平成22年に初めて当地域で約80本の発生が確認されましたが、24年度は被害本数約40本と激化傾向には至らず推移しています。24年度に実施した防除対策では2箇所でおとり丸太を設置し、キクイムシ類約58万匹を誘引捕獲することができ、またナラ枯れ被害木4本の燻蒸処理を行いました。

こうした対策が少しでもナラ枯れ被害の拡大抑制につながっていると考えながら、本年度も引き続き誘引捕獲等に取り組んでいます。参加者は、ナラ枯れ対策についての説明に熱心に耳を傾け、捕獲されたカシノナガキクイムシを興味深く観察していました。

今後について

見学会後、参加者からは、「サワグルミ、ブナ等の林木遺伝資源保存林の説明を聞き新たな目で樹木を観察することができて良かった」「ナラ枯れの防除対策おとり丸太法を初めて知ることができ、とても勉強になった」「今後の見学会として新しい伐採方法、集材機械等を見学したい」といった感想や今後の参考になるご意見をいただきました。



捕獲されたカシノナガキクイムシをルーペで観察

私と国有林

「世代を繋ぐ環境保全活動」

株式会社日立ハイテクノロジーズ
CSR本部CSR・コーポレートコミュニケーション部 係長 小笠原 誠

日立ハイテクグループでは、地球温暖化防止など地球環境保全への貢献を主目的とした育林活動を茨城県石岡市において平成17年から継続的に実施しています。

茨城森林管理署・芳賀地区森林組合のご指導・ご協力により、当グループの社員やその家族が継続的に手入れを実施した結果、植樹の時は30センチ程度だった苗木は、現在では7メートルを超える高さにまで成長しています。当グループは、従来から事業活動

における省エネルギー・省資源の推進や、製造・販売する製品の環境への配慮などに取り組んでいました。そのような活動に加えて、社会貢献としても環境保全に役立ちたいという理念のもと、林野庁の「法人の森林制度」の「分収造林」を活用し、国有林の一角に2・32畝の土地を借り受け「日立ハイテクやさとの森」(注)と命名し、平成17年4月にヒノキなどの苗木5600本を植樹し活動をスタートさせました。

(注)市町村合併前の地名「茨城県新治郡八郷町」から命名
植樹から5年間は、苗木の成長を妨げる雑草を刈り取る下草刈りを実施しました。
下草刈りが一段落した後は、近隣の植林地での間伐の実施も検討しましたが、自らが植えた樹木が育ち愛着のある「やさとの森」で作業を継続実施しようということになり、ここ数年は枝打ちを行っています。
毎年の活動には、関東地区の各拠点から80名程度が参加、平成17年からの延べ参加者は約850名にのぼります。
平成21年からは社員有志に加えてその年の新入社員も教育実習の一環として育林活動を行い自社の社会貢献活動について理解を深めています。

本活動による環境保全効果には、「二酸化炭素の吸収・貯蔵」「水源涵養」「土砂流出防止」があり、毎年、関東森林管理局からその効果を数値データでご連絡いただいています。
貢献度は植樹時から少しずつではありますが増加しています。
当社の育林規模は決して大きいものではありませんが、契約期間の平成17年〜平成77年の60年間、リレーのように代々の社員がバトンを引き継ぎ地球環境保全に微力ながら貢献していけるように地道に取り組んでいきたいと思っています。
また、今後は「やさとの森」での地域の方々との交流や生物多様性に繋がる活動の導入なども検討し活動の幅を広げていきたいと思っています。



植樹実施時の様子



植樹後数年を経た森の様子



下草刈りの様子



枝打ちの様子

森づくりの最前線

福島森林管理署 白河支署 横川森林事務所 森林官 佐藤 匡



鎌倉岳

私の勤務する横川森林事務所は福島県南部の古殿町にあり、約2,800㍍の国有林を管理しています。

古殿町は阿武隈山系の標高300～500㍍に位置し、80㍍が森林であり林業の町として栄えてきました。

国有林も人工林の割合が大きく木材生産が盛んであり、町を流れる鮫川を境に北側が大原森林事務所、南側が私のいる横川森林事務所の管轄となっています。

当管内には、町のシンボルとして親しまれる鎌倉岳と町最高峰の三株山があり、どちらも国有林内にあります。

鎌倉岳（標高669㍍）は町の中心部に位置し、古くは山伏修験の霊山として信仰されていました。

山頂部一帯は鎌倉岳風景林となっており、ケヤキやカツラの大きな木もみられ、山頂付近にある駒形神社の背景林として風致的な役割を果たしています。

林内にある遊歩道は、ふくしまの遊歩道50選に選ばれており、イワウチワの群生地が有名です。

頂上へのアプローチは急な登山道と岩場の2ルートあり、山頂からは眼下に町の中心部を見おろすことができます。

三株山（標高842㍍）は、鎌倉岳とは対照的になだらかな三株高原にあります。山頂にある富士見台からは、冬の空気の澄んだ晴れた日など条件が揃うと、遠く離れた富士山を望むことができます。

また、展望台からは太平洋から阿武隈山系まで一望できる素晴らしい眺望があり、四季折々の景色を楽しめます。

管内の国有林は70㍍が人工林で、生活区域とも近いことから、国有林の沢から水道を引いている民家も多く、管内の人工林は木材生産の場であるとともに、地域の水源地にもなっています。

今こそ管内は人工林が多い地域となっておりますが、昔のこの地域は馬の放牧地で、明治末期頃までは毎年春になると山には無断で火入れが行われていたそうです。

しかしながら、明治末期から大正初期にかけて、営林署（現在の森林管理署）がスギ、ヒノキを造林するようになってから火入れは次第に減り、営林署の指導の甲斐もあって地域の造林熱が高まり、人工林が増えていきました。

当時からの林はほとんど残っておりませんが、大正初期に植林され見本的なヒノキの林として宣伝・普及を目的に設定された「三株ヒノキ展示林」にその姿を見ることができます。

森林官2年目、当森林官としては5ヶ月と、まだまだ駆け出しですが、4月から一緒に配置された地域技術官とともに、協力しながら業務にあたっています。

先輩方、地域の方々によって育まれてきた森林を、これからも適切に整備、管理し、次代に繋いでいけるよう努めたいと思います。



三株山(展望台からの風景)



三株ヒノキ展示林



間伐実行中

管内のいちおしスポット イモリ池と笹ヶ峰

■ 上越森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/joetu/index.html>
〒943-0172 新潟県上越市大字大道福田字沢田208番地
TEL:025(524)2180(代表) FAX:025(524)2189



妙高連山とイモリ池のすい蓮

妙高連峰は、標高2454㍎の妙高山を中心に、赤倉山、三田原山、神奈山、前山等の外輪山が囲んでいる典型的な複式火山です。

その山裾の、標高750㍎の高さに位置するイモリ池は、以前は沼地であったものを昭和2年に湖底を浚渫(しゅんせつ)して池を広げ、現在の一週500㍎程の小さな池となりました。

小さな池ではありますが、間近に迫る妙高山を湖面に映した風景はなんともいえないぐらい美しく、8月には、湖面がすい蓮に覆われ、「すい蓮祭」が行われています。

これからの紅葉シーズンには、頂を真っ白にした妙高山を映し出し、美しさが一段と引き立ちます。

また、妙高山の周辺では、癒し効果の高い森として池の平温泉を中心とした地域が、森林セラピー基地「妙高」として、また、笹ヶ峰高原など6箇所が「森林セラピーロード」に認定されています。

イモリ池よりほど近い笹ヶ峰高原は、標高約1300㍎の高地で、ブナやミズナラの巨木や美しい花を眺めながら自然散策を楽しむことができます。

笹ヶ峰高原には、森林セラピーロードのうち、笹ヶ峰一周歩道及び笹ヶ峰夢見平遊歩道が整備されています。



字棚の清水

笹ヶ峰一周歩道は、牛が放牧されている笹ヶ

峰牧場、2000㍎級の山々を水面に映し出す清水ヶ池や乙見湖、本州最大のドイツウヒ林などを巡る10[㍎]のコースです。

牧場のほぼ中央には、環境省の平成の水100選に選出された「字棚の清水」が湧き出ていて、のどの渴きを潤してくれます。

また、国有林を利用した笹ヶ峰夢見平遊歩道は、ブナやカラマツなどの繁茂する森の中へ進むと、季節の花々や神彦・道姫と名付けられているミズナラの巨木や、幹回り10㍎の地蔵カツラなど手つかずの自然の絶景を目にすることができます。

妙高山と言えば、登山が有名ですが、その裾野では子供からお年寄りまで、無理なく楽しむことができます。

見学や散策の後は、湯量豊富な温泉につかりゆっくりと疲れを癒やすこともできます。

今回紹介した場所は、上信越道、妙高高原ICから約1時間程度の範囲に位置しておりますので、これからの紅葉シーズン、自然を満喫しにぜひお越しください。

(上越森林管理署 広報広聴連絡官 宇野正巳)



地蔵カツラ

■ ■ 編 発
行 行
集 集
所 所
F T 総
A E 関
X L 東
(0 2 2) 総
(2 2 7) 務
(2 3 1) 林
2 3 0 1 1 5 8 管
1 3 9 3 8 理
課